

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.121 - 2019年1月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

総長による宣教の呼びかけ

2018年 無原罪の聖マリアの祭日に

愛する兄弟会員の皆さん、

私の兄弟的な親しみをこめたごあいさつが、マリアの汚れなき御宿りの祭日に皆さんに届きますように。この日は、三年前、全世界のすべての管区の全会員に向けて、宣教への強い思いを込めた呼びかけをするために選んだ日です。今年も、この呼びかけを新たにします。5分ほどのビデオを合わせてお送りします。

教皇フランシスコは2019年の10月を、**特別宣教月間**とすると発表されました。教皇ベネディクト十五世が第一次世界大戦の終わりに出された使徒的書簡、マクシムム・イルドMaximum Illudの百周年に当たるためです。



困難の中にある時は、常に**好機**です。その場合、“いい仕事をする”、“見事な仕事をする”時なのです。ドメニコ・サヴィオがドン・ボスコの執務室で“DA MIHI ANIMAS COETERA TOLLE”という言葉を目にしたときに言ったように。それは重要度の最も高いことでした。そして、私たちの父ドン・ボスコの心に常にあった、最も深い情熱であったすべての民への福音宣教について、私たちはそのようにとらえています：重要度の最も高いことであると。

愛する会員の皆さん、私が提案したいと思うのはこれです。ドン・ボスコの子らの宣教にかけた惜しみない献身を祝い、記念するよう皆さんを招きます。

今度の宣教派遣は第150回目となり、2019年9月29日の日曜日、ドン・ボスコの時代以来いつもそうであったように、ヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂で行われます。宣教の呼びかけへの応答が、聖フランシ

スコ・サレジオ修道会、私たちサレジオ会員がささげることのできる、主への、教皇フランシスコと教会への、そして何よりも、世界各地の私たちのすべての現場にいる、愛する若者への、最高の贈りものになることを私はどれほど望んでいることでしょうか。

今年、すべての人へ、故国を出て、生涯をかけて宣教するmissio ad gentes, ad exteros, ad vitamために、各管区が少なくとも一人の会員を総長にゆだねてくださることが私の夢です。

これは過大な願い、夢でしょうか？

会員の数において貧しい管区でさえ、可能ではないでしょうか。

すでにある管区では、6名の会員がサレジオ会宣教師の召命において成長し、来年の第150回宣教派遣に向けて自分たちを総長の手にゆだねてくれています。

親愛なる管区長の皆さん、生活の中で宣教の望みを培うよう率先して会員を助け、その識別を促進し、皆さんとの個人的な対話の後、総長と連絡を取るよう会員に勧めてください。

神は惜しみなさにおいてご自身が負けるのを許されないということを、忘れないようにしましょう。各管区、特に**神殿で献金をした福音書のやもめのように**惜しみなくささげる管区のニーズを考えると、私たちの会も同じです。

宣教部門との対話、また最高評議会でこの数か月間分かち合われた考察から、2019年に緊急性があると特定されたこと

ころ、充実した人数の会員を派遣したいと私が考えるところをはっきり示すことができます。

- ・アマゾン流域の私たちの拠点、またパナマのコロンの新たな拠点。
- ・スーダン、そのほか難民のために働くサレジオ会の拠点のあるアフリカ各地。
- ・リトアニア、アルバニア、コソボ、ブルガリア、そのほかプロジェクト・ヨーロッパの新たな前線。
- ・モンゴル、ラオス、ネパール、ヤクーツク。
- ・オセアニアの島々にある私たちの数多くの拠点。
- ・十分な人材があれば、ラテン・アメリカのいくつかの宣教の前線。

このすべては当然、呼びかけへの寛大な応答にかかっています。

第28回総会準備の道を歩む各地の管区会議は、中心的テーマ：「今日の若者のために、どのようなサレジオ会員に？」についての豊かで実り多い識別のただ中にあります。明確で示唆に富んだ回答が起草され、書き上げられる前に、若い会員、円熟した会員の、幸せな、寛大な、具体的な顔に雄弁に語ってもらいましょう。主が自分に差し出された宣教への招きに耳を傾けなければならないと、彼らは感じています。

愛する兄弟会員の皆さん、私はこのために祈り、この意向をキリスト者の助け、無原罪の聖マリアにゆだねます。自らが生きた同じ宣教の情熱をサレジオ会員たちのうちに養いつづけてほしいと、ドン・ボスコに願いながら。

心からの親愛をこめて、ごあいさつをおくります。

総長

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ

サレジオ宣教の日2019

2019
GIORNATA MISSIONARIA SALESIANA
IL PRIMO ANNUNCIO TRA I RIFUGIATI E SFOLLATI IN AFRICA

2019年1月6日、主の御公現の祭日に正式に発表されたサレジオ宣教の日2019のテーマは：「ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました」（ヘブライ人への手紙13・2）。ポスターの中心にはアフリカの二人の少女がいます。一人の少女がもう一人を歓迎しています。アフリカの尊いもてなしの象徴です：アフリカがアフリカを温かく迎えます。私たちの時代の最も大規模な移住はアフリカの中で起きています。何百万もの人々が家を追われています。

背景には、難民のキャンプや居留地、司牧・教育の活動、特に職業訓練の様子が描かれています。サレジオ会はそこで、難民や避難民の中で、生活を共にしています。

テーマは、この使徒職の新たな前線に投げかけられている挑戦に私たちの目を向けさせます－サレジオ会員の友情、オラトリオ、学校、職業的養成……そしてイエスの良い知らせを必要としている数多くの子ども・若者がいるのです。

同時にテーマは、人をもてなすという福音的徳を生き、広める機会でもあります。その徳は、温かく迎える心の広さ、私たちの家の扉を、私たちの手、心を他者に向けて開くこと、特に最も助けを必要とする人々に開くことです。そうすることによって、私たちは天使をもてなし、また同じ主をもてなすのです。

サレジオ会の宣教の意向

アフリカの難民、避難民のために

紛争を逃れ故郷を後にしなければならなかったこの兄弟姉妹たちが、受け入れられ、尊厳をもって生活を再建する道を見いだしますように。

2019年のサレジオ宣教の日のテーマは、アフリカの難民・避難民の間での第一次福音宣教に焦点を当てます。アフリカの難民・避難民の数は約2400万人に上ります。サレジオ会はさまざまな司牧的、教育的プログラム、人間的向上のためのプログラムをもって、この極限の場で働いています。この状況を生み出している国々の平和と正義のために、難民となった人々のため、特に子ども、若者のために祈りましょう。この人々が、ナザレの聖家族のように、平安、安全、未来を築く機会を見いだし、この“出エジプト”のうちに主のはからいと、なぐさめ深い現存を体験しますように。